



## 露地野菜

### ★晩秋播きキャベツの定植

- 定植が遅れると地温の低下により、活着が悪く、越冬株率が劣りますので、遅くとも11月中旬までの温暖な日に定植して下さい。
- 定植直後に除草剤「トレファノサイド乳剤」を散布しておく、春雑草の繁茂を防止できます。100㎡(1畝)当たり原液20~30ccを10リットル程度の水に希釈して散布して下さい。なお、①除草剤は降雨直後で、土の表面が湿っている時の除草効果が高く、②薬剤散布後は畝面に足を入れたり、手で土の表面を触るとその部分は除草剤の被膜層が崩れて除草効果がなくなりますから、散布後5~7日はできる限りそのままの状態を保って下さい。

### ★タマネギの定植

- 植付け後の生育のバラつきを防止するために定植は11月上旬までに行ってください。定植に当たっては、根を乾かさず、大きさが揃った苗を植付けて下さい。なお、植付け後、2週間程度経過してから除草剤を散布すれば、春雑草の繁茂を防止できます。ナブ乳剤、トレファノサイド粒剤、クレマート乳剤、クロロICP乳剤等が使用可能です。除草剤散布後は前述のキャベツ同様、畝面の土を触らず5~7日はそのままの状態を保って下さい。

### ★葉菜類や根菜類の病害虫防除

- 9月いっぱいまでの高温により、秋播き葉菜類や根菜類は、アオムシやヨトウムシ類等が多発しましたが、まだまだ今月いっぱいには発生します。常時、圃場を観察し、発生初期にジェイエース水溶剤の1000~1500倍液を散布して下さい。ただし、種類により使用できる期日が異なりますので注意が必要です。使用基準は、キャベツは収穫7日前まで、ハクサイ・レタス・ミズナ・ブロッコリー・カリフラワーは14日前まで、チンゲンサイ、カブは収穫21日前まで、ホウレンソウは収穫30日前までです。
- 本年は、10月中旬以降の最低気温の低下が大きいため、軟腐病、べと病等が多発が懸念されます。常時、畑を観察し、発生がみられたら、ドイツポルドーAの500倍液を散布して下さい。なお、これら病害の病徴は本年9月号を参照して下さい。

### ★一寸ソラマメの管理

- 無マルチ栽培では、11月下旬~12月上旬にそさい5号を5g/株を施用し、草勢維持を図って下さい。
- 今月下旬までに寒害防止のため、不織布等をペタ掛けまたはトンネル被覆し、積雪前に湿害防止のために排水溝の整備を行って下さい。

## 施設栽培における軟弱野菜類の管理

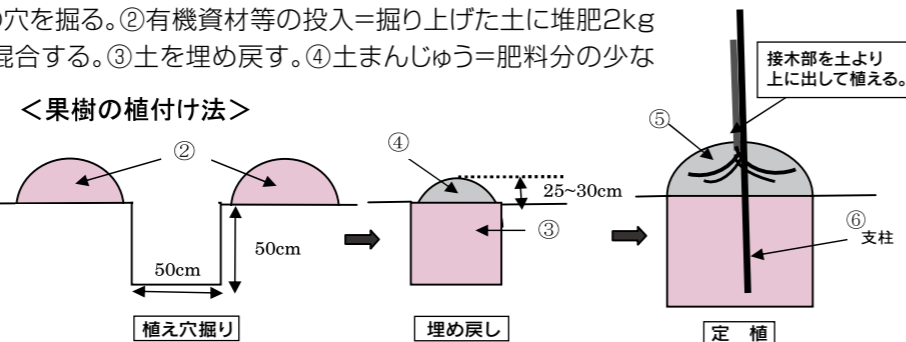
- 今月の後半になると、ハウス内は軟弱野菜類の生育適温を下回るとともに過湿等による病害の発生が懸念されますから、気温や土壌水分の変化に対応した温度管理や土壌管理を行い、生育遅延や品質の低下防止に努めて下さい。
- ホウレンソウ、コマツナ等を11月に播種する場合は、低温のため生育期間が長くなりやすいので、ハウスの保温に努め、生育促進に努めて下さい。なお、べと病等の予防のため**べと病抵抗性品種**を用いるとともに、①厚播きを避け、②発芽後の灌水は控えて過湿にならないよう注意して下さい。
- 軟弱野菜類の中で、特にコカブは低温で葉が伸びにくく、長期間低温に遭遇すると、収穫時の荷姿が悪くなるので、必ず内張りカーテンを設置してハウスの保温に努めて下さい。

## 落葉果樹の植付け

果樹類は一旦植付けると、そこから移動することは困難です。したがって将来多くの果実を生産するためには、最初の植付けが最も重要な作業になります。落葉果樹は下図を参照し、根が活動を始める前の11月から翌年3月上旬までに植付け予定地の土の表面が乾いている日に植付けて下さい(ミカン、ピワ等常緑果樹は翌年の3月下旬~4月上旬が植付け適期になります)。

### ○植付け手順

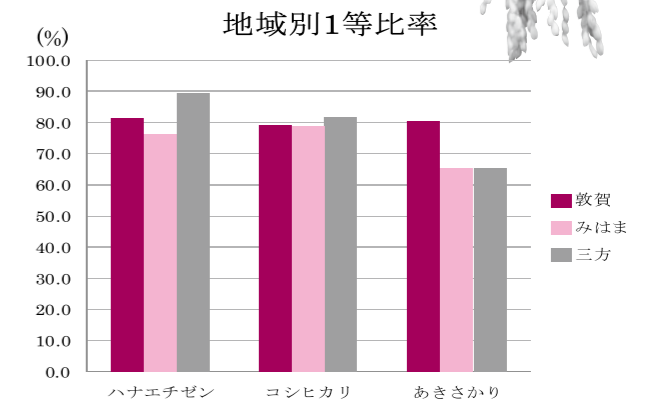
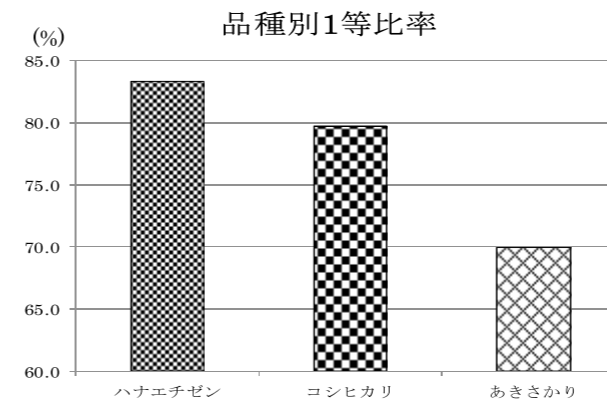
- ①植え穴掘り=最低縦横、深さ50cmの穴を掘る。
- ②有機資材等の投入=掘り上げた土に堆肥2kgと石灰および化成肥料50~100gを混合する。
- ③土を埋め戻す。
- ④土まんじゅう=肥料分の少ない土を高さ25~30cmに盛り上げる。
- ⑤植付け=④の土に根を横に広げ、根と土に隙間(空間)が出来ないように乾いた土を入れる。
- ⑥支柱を立てて、苗を8の字に誘引結束し、たっぷり灌水する。



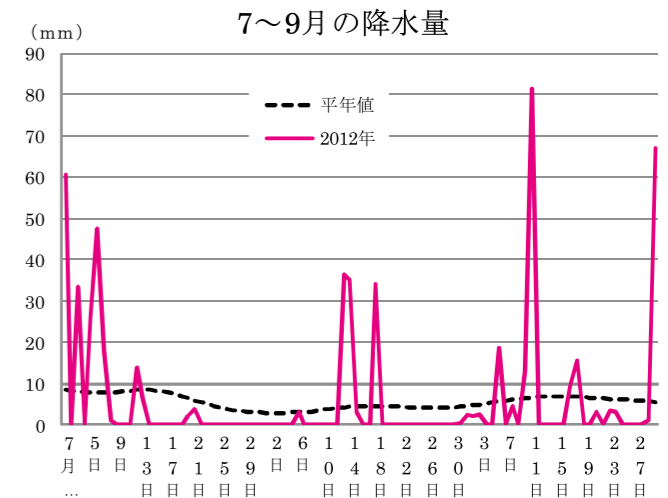
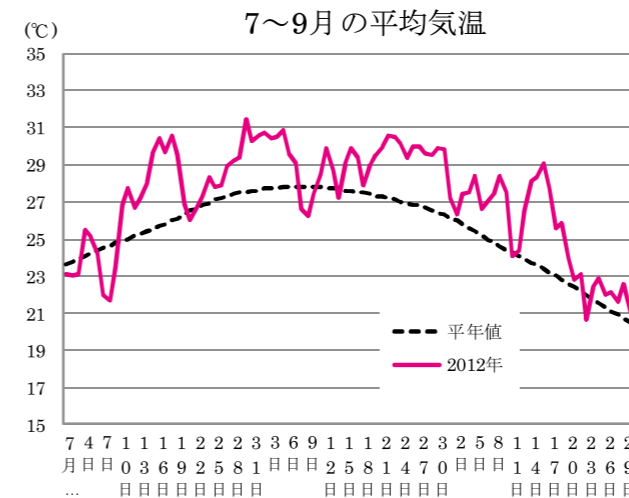
## 水 稲

### ★平成24年産米の集荷速報(No. 2)

- 品種別1等比率は、10月5日現在、ハナエチゼンが83.4%、コシヒカリが79.8%で80%前後となりましたが、あきさかりは70.0%と低水準となっています。
- 地区別の1等比率をみると、ハナエチゼンは、三方が89.4%と最も高く、次いで敦賀が81.4%、美浜が76.0%の順で、コシヒカリは、三方が81.6%と最も高く、次いで敦賀が79.5%、美浜が78.7%の順となっています。



- 格落ち理由は斑点米が大きな要因となっており、カメムシ類の防除対策が来年度の大きな課題といえます。カメムシが雑草地にいる間に水田周りを除草して、カメムシの住処をなくすことが斑点米を防ぐうえで欠かすことのできない重要な対策です。
- また、ハナエチゼン、あきさかりでは、7月中旬以降の高温・干ばつの影響もあって胴割粒も多くなりました。来年度は水管理を徹底し、刈遅れのないよう収穫適期を見極めることが重要となります。



- 10月5日現在の倉前の集荷量は2,097tで、品種別集荷量比率は、コシヒカリが46.0%、ハナエチゼンが27.5%、あきさかりが26.4%となり、ハナエチゼンとあきさかりがほぼ同程度の量となっています。

